

議員定数に関する市民説明会会議録

会議年月日	平成25年2月3日（日）		
開 会	午前9時00分	閉 会	午前10時15分
場 所	鳥取市国際交流プラザ		
出席委員 (5名)	委員長 上杉 栄一 委員 下村 佳弘 児島 良 角谷 敏男 谷口 秀夫		
傍 聴 者	78名		
本日の会議に 付した事件	(1) 議員定数改正に向けた取り組みの経過 (2) 市民アンケート調査結果 (3) 質疑応答・意見要望		

◆**桑田議員** それでは、これからお時間を頂戴をいたしまして、質疑応答、また御意見、御要望等をお伺いをしてまいりたいと思います。

司会のほうから御指名をさせていただきますので、質問、意見などあります方は、お手を挙げていただきたいと思います。なお、本説明会につきましては記録を残しまして、また専門的な質問等、この場でお答えできない場合もございますので、そのときは後日、鳥取市議会のホームページなどに掲載をさせていただきたいと思います。発言の際は、氏名をぜひお名乗りをいただきまして御発言をいただきたいと思います。さらに、たくさんの方がきょうお見えでございますので、多くの方に御発言をいただきたいと思います。発言は1人1回2項目までと、大変恐縮ですが簡潔明瞭をお願いをしたいと思います。

それでは、御意見、御要望、また質問のございます方は、お手を挙げていただきたいと思います。

はい、どうぞ。お名前をお願いいたします。マイクを持って行きますので。

○**質問者A** マイクええわ。Aなんですけどもね……。

◆**桑田議員** Aさん、はい。

○**質問者A** 今、36人おってね、連合会でも9人ということなんだけど、4会あって8ということなんだけど、議会のほうで何で8がいいの、私は7でいいんじゃないか。だから28人ですね。28人にできないかと、何で8でだめなの、連合は10だという。

それとやっぱりね、財政が緊迫した状態で1人だけ減らしたんです、ねえ、減らしてほしんですね。だからしっかりね、自分たちがそれなりの働きをしてない。選挙に出るときだけぺこぺこ言っってね、物を言っってね、当然、国がしとるように実際できてないんじゃないかと、働けないん

じゃない。ねえ、市庁舎問題のね、あの分でも、選管は2,700万とかいって、あれ実際は5,800万かかるとるね。こんなね、議会運営なんてないよ。もっとしっかりしなきゃいかんし、定数減らしてよ。以上。

◆桑田議員 はい、ありがとうございます。

それでは、今の御質問に対しまして、上杉委員長、はい。

◆上杉議員 議論につきましては、4減らすか、6減らすかというような議論もちろんあったわけでありまして、10につきましては、人口規模との話からすれば7,700人に1人ということになりますと26でいいわけですがけれども、全国の特例市、あるいは山陰の類似都市からということを検討する中で、やはり合併をして765平方キロ、今、合併前の約3倍の地域になった。それで、合併までは、実は当初の市町村議員さんが140名おられたわけなんですわ、平成16年の11月までは。それが具体的には44名になって、現在36名になったということでありまして。減らせばいいという意見はもちろんあるわけでありましてけれども、じゃあ何ぼ減らすかということ、それから議論の中では、一遍に例えば6ないし8減らすという意見もなかったわけではありません。ただ、これにつきましては、やはりそういうことであるならば段階的に減らすのほうという考えもあるんじゃないか。ただ、次の次の選挙のことについて、我々がここで議論する立場ではありません。先ほど議会改革等々についての今後のそれこそ検討の場を持つというふうになっております。ですから、財政問題、そういったものも踏まえて、定数のあるべき姿というものについては、今後は検討していくべきだというふうに思っております。一遍に8減らせえという意見もありますけれども、議会の中での議論は、やはり段階的に減らしていくべきだと、急激な削減、それから議員間討議については、やはり8人を担保するべきだという声でありました。御意見を受けとめさせていただきます。

◆桑田議員 続けて、はい、どうぞ。じゃあ、前の方。

○質問者B Bといたします。

◆桑田議員 ちょっとお待ちください。

○質問者B マイクがなくても聞こえるんじゃないでしょうか。

◆桑田議員 記録に残しますので、申しわけありません。

○質問者B 面倒くさい。まず……。

◆桑田議員 お名前、済みません。

○質問者B Bといたします。

◆桑田議員 Bさん、はい。

○質問者B まず、進行についてですけども、これだけ大勢の人間が関心を持って来ているのに、質問の回数に制限を加えるっていうのは、要するにこの会はアリバイづくりだというふうに私は理解するんですけども、もっと無制限にやるべきではないかなと、まず、進行について意見言わせてください。(拍手)

◆桑田議員 進行につきましては、限られた時間でございますし、きょうもたくさんお越しになっておられますから、より多くの皆さんから御意見をいただくというのがこの会の趣旨でございますので、時間無制限にという、皆さん、いろんな御意見を述べたいという意味はわかります

けども、時間の都合もございますので、きょう初めてのこういう説明会でございますから、御理解をいただきたいと思えます。

議長のほうから、特によろしいですかね、この件について。

◆**湯口議長** 多くの皆さんに御意見を伺いたいということが趣旨でございますので、例えば1人の方が10項目も15項目もお聞きになられるということになりますと、他の方の時間もなくなってまいりますので、とりあえずは今、司会者のほうが申し上げたとおりにやっていただいて、また一巡して、そのほかの方のそういった御質問がなければですね、また指名をさせていただくというような運営で御理解をいただければというふうに思っております。

◆**桑田議員** はい、Bさん、どうぞ。

○**質問者B** 要するに時間がないですから、このことで余り聞きたくはないですけども、多分ここに来て大勢の方には、時間制限されてしまうと、質問制限もありますと、欲求不満を抱えて帰ることになるのではないかなと思えます。要するに、市議会、市長に対する不満を抱えたまま我々は帰宅しなければいけない状況になってくると思えます。そういった意味で、多くの意見をたくさん聞いていただきたいと思えます。

◆**桑田議員** はい、御質問につきまして、はい、じゃあ前の緑の、はい、セーターの方。

○**質問者C** Cと申します。結論から申しますと、私は36人の維持を現状維持するべきだというふうに考えております。まず、今、市議会のトップの方の説明を聞いておりますと、なぜ減らさなければならぬのかということは一向に明確でないのが、まず第1点であります。

もう1点は、先ほどのあのアンケートの結果の中で、議員定数を知らないという人たちがたくさんおられると、まあ半数近くおられる。こういう現状の中で、定数削減を考えようというのが、そもそも難しいのではないかと。というのは、この文章の中で、先進地での研究を進められたというふうに説明をされました。その中で聞いてると、この先進地のところは広く市民の声を聞いたと、そしてアンケートをとっていると、そこにいわゆる先進地の意味があるみたいな御説明だったと思うんですね。僕は初め議会活動のありようはそれぞれ違つとるので、そこに行かれたのかなと思つたんですけど、どうも御説明ではそうではない。だとすれば、先ほど幾つかの団体がこの削減を要望してるという御意見がありました。残念ながら、僕が属しとるのは恐らく自治連合会、いわゆる町内会に属してることは自治連合会の一員だと思うんですけど、しかし、僕は自治連合会というのは町内会の、いわば多くの集まりが一つになったもんだと理解しております。しかし、町内会の総会で定数削減をテーマにしましたからどうですか、こんな話をね、聞いたこともないし、僕の友人に聞いても、そんな話を町内会で聞いたこともない、それがあたかも錦の飾りのように、こういう団体からあったから削減しましょうという御意見はね、どうも僕個人としてはですね、納得しかねるということでもあります。

そういう意味からですね、特に、先ほど感情的に市庁舎問題なんかで市民の声ちゃんと反映できないというようなね、議会は、議員は要らんわいという感情論があるかと思えますけど、それじゃ、やっぱりだめだと思うんですね。本当のところ、僕たちが今、僕たちの生活を守っていくためにはやはり議会というのは今の根幹になっていくわけですから、その議員さんたちがどう働いてもらうかということは、やはり人数に大きくかかわっていくと。減らせば減らすほど住民の

声が届かなくなる、そういうふうな事態はやっぱり避けるべきだ。もし、どうしても財政事情やそういう問題があるんだとすれば、もっとゆっくり皆さんの理解できるようなこういう会を頻繁に行って、議会が行くところまでやっぱしやっていく。自治連合会がそういう要望を出されるのであれば、町内会総会でもこういうことを提案したけどもどうだろうという意見を聞く、それぐらゐのやっぱり腹構えで市議会はやっていき、私はそういうことが重要じゃないかと思って、とりあえず現状を維持していくということを求めたいと思います。以上です。（拍手）

◆**桑田議員** 上杉委員長。

◆**上杉議員** ありがとうございます。現状維持という声も、きのう気高のほうの説明会でもそういう声はありました。委員会の中での大きな議論といたしますか、根拠になったのは、やはりこの市民アンケート、市民の声ということであります。具体的な状況はわからんまでもして、でも6割の方が、6割ぐらいの方がやはり減らすべきだという声、これはまた無視はできないということで、ふやすべき、現状維持の方が約10%、これはその内容についてはいろんな思いはあるでしょうけれども、やはりきょう市民の皆さんの声を聞く中で、生の声をきょう聞かせていただきましたし、それから具体的には2,000人のアンケートの中で出てきた600人の方の中の6割がやはり減らすべきであるという、これも厳然たる事実であります。ですから、そういうことも踏まえまして、先ほどの報告がありました、この市民の説明会が終わりましてから委員会開催をいたしまして、報告を出すということでもありますので、御意見として聞かせていただきます。

◆**桑田議員** 後ろのほうでお手を挙げていらっしゃる方、はい、どうぞ。

○**質問者D** Dといいます。

まず最初に、先ほどの委員長の報告の中で、市民の意見を反映する、市政を監視する、そのためには議員定数を維持すべきだという意見もあったとありました。私はその意見は非常に重要な意見だと考えます。

そこで伺いますが、特別委員会ではこの意見についてどのように議論されたのか、まず最初に伺いたいと思います。

◆**桑田議員** では、最初の質問について。

◆**上杉議員** 特別委員会の議員定数の意見につきましては、現定数を維持すべきという意見、それから4減らせという意見、それから6減らせという意見、それから合わせて順次減らしていったらいいんじゃないかという意見がありました。

委員会におきましては、現状維持という委員さんが9名中お一人、あとの委員さんはやはり減らすべきだということでありました。内容につきましては、先ほど申し上げたとおりでありますけれども、自治連合会から10人ということについては、これは人口で割るべきではない、市域の広さ、そういったものを勘案すれば、やはりある程度の、10ということではなくして、減らすにしてももう少し段階的に減らすべきであるということでもあります。

それから、先ほど私、財政難の話をしましたけれども、委員会の中では財政改革といたしますか、財政の問題で議員を減らすということについては、これは逆にまた大きな問題がある。ですから、財政が厳しいから議員を減らせえということではないんだよということでは、委員会の中ではこれは統一した見解であります。ですから、方向、流れとしては現状維持という委員さんは1名、

あとの8名の委員はやはり減らすべきと、結果としては4人減ということだと、それが状況であります。

◆桑田議員 Dさん、続けて、もう一問ありますか。 はい、どうぞ。

○質問者D 私が聞いたのは、何人が減らすとかふやすとかという話でなくて、議会としての役割、住民の意向を反映する、市政をチェックする、そういう機能から見て、どの程度の議員定数がふさわしいのか、そういう観点から議員を足りたのか、足りなかったのか、そのことをお聞きしたいんです。 どうですか。

◆桑田議員 上杉委員長、はい、どうぞ。

◆上杉議員 先ほど我々が一番重視したのは、委員間討議、議員間の討議ということを重視をいたしました。鳥取市議会36名、各常任委員会が9名で構成しております。議員間の討議ができる数を何名がそれこそいいのかということの中で、極端に下げた場合には、やはり議員間の十分な討議ができないということもありました。9名という意見の中で、8名であるならば十分にこれができるのではないかとということで、議員間討議の担保できる8名ということで決定をしるところであります。以上です。

◆桑田議員 はい、どうぞ。

真ん中の、済みません、もう一度、手を挙げていただけませんか。

○質問者E Eといいます。 よろしくお願いします。

先ほど委員長のほうから御報告がございましたが、今回、初めて住民に対するアンケート調査を実施されたということで、その結果を踏まえた検討というふうに伺いました。大変初めての試みで、御努力されたことについては評価をしたいというふうに思っております。

議会議員の定数是正の問題は、市民の思いとしてはいろいろな意見があるというふうに理解をしております。この問題を検討するに当たって大切なことは、先ほど委員長おっしゃっていましたが、この自治の問題をとらえても、やはり最近の経済情勢からコストの問題も重要な検討課題だろうと私は持っております。

住民投票で顕在化しました、あの運動の中で顕在化したもったいない、もったいないという一つの流れがありましたが、この問題を考える中でも、これが原点の一つになるように私は思います。しかし、この問題はあくまでも市会議員の専決事項だというふうに認識をしておりますので、いろんな手法を用いながら、民意を十分酌み取って、みずからの責任で慎重に審議していただければいいのではないかと、そのことが議員の責務を果たすことにつながるのではないかなと私は思っております。

もう1点、その議員定数の減が確定した段階では、これはお願い事項ですが、速やかに任期途中であろうと、議員、新しい枠組みの中で選挙をやっていただいて、新しい体制のもとに、特に庁舎問題というのは非常に重要な問題なので、この問題について取り組んでほしいな、これは要望として申し上げておきます。以上です。

◆桑田議員 ありがとうございます。Eさんの方から、御意見、御要望であったと思いますけども、これについて委員長の方から何かありますか。

◆上杉議員 ありがとうございます。まず、議員定数については、再三申し上げます

ように、以前は議会の中で決定をいたしておりました。その結果を市民の皆様に、次の選挙から何人を減らすということでありましたけれども、こうして今回は市民の皆さんの声を聞く中で、何人がいいのだろうかという声を聞く中で方向を出したということでもあります。

それから、財政問題からすれば、財政が厳しいから議員の数を減らせえという意見は確かにあるわけでありましてけれども、減らすことによるマイナスと、そのこともやはり考えていかなければならないのかなというふうに思っております。

議会が大変できが悪いということで大変おしかりを受けております。これを真摯に受けとめて、今後の議会活動でしっかりと市民の皆様に認められるような議会にならなければならない、そのために議員を減らしたがために、その効果はもちろんあるわけでしょうけれども、またそのマイナスの面あるわけです。そのあたりのことはしっかり考えていきたいというふうに思っておりますし、皆さんも御理解いただきたいというふうに思っております。

◆**桑田議員** はい。そのほかに御質問、はい、どうぞ。

○**質問者 F** 済みません、Fと申します。よろしく申し上げます。

先ほどから議員の数っていうことを言われておりますけれども、決して議員というのはですね、議員としての特権ではなくて、やはり住民の代弁者であるということが原則でして、ここの数が減るということは、つまり私たち市民の声を届けるパイプが細いということだということ、まず議員の皆さんには自覚をしていただきたいなというふうに思うんです。だから、議員を減らせば減らすほど私たちの声が届かなくなるのに、その点についてね、どういうふうに議論されたのかなということがちょっと見えてこない。1委員会ですら8人だったら議論がまあまあできるわというお話ありましたけれども、これは多いほどたくさん意見がそこに反映されるということですから、8人の意味っていうのがちょっとよくわからないと、その辺はどういうふうに議論されたのかなと。

それから、こういうふうですね、先ほどアンケートでありましたけれども、議会に対する不満がたくさんあるわけです。それはそうだと思いますけれども、それをどういうふうに解決をするのか、議会改革ですよ、そのことについては今後議論すると。私は先に議会改革のことを議論していただいて、この市民の声がかきとめて議会の中で議論されていないということ、これを解決せずしてですね、数だけ減らすっていうのは、要するに市民の声を切り捨てるということで終わってしまうと。なぜそういう結論に先に出してしまうかがよくわからないんです。先ほど先進地を視察に行かれたと、いろいろ議員間討議の話だとかございましたけれども、ああいうものを先にしっかり議論していただくと、そういう順番でやっていただきたいというふうに思いますけれども、その点、どうでしょうか。

それから、今回のこれ報告、中間報告ということで、きょう私たち意見聞かれてるわけですがけれども、この出た意見が反映されずに、次の議会で定数削減にしますっていうことになったら、この場は一体何なのかというふうに、先ほど御意見ありましたけれども、ただ聞くだけかということになるわけです。ですから、私は、これ中間報告っていうことですから、次の議会で、そんな議会改革の話もせずに定数削減決めますなんていうことにやらないでほしいと。しっかりと市民の声をどういうふうに議会が反映していける仕組みをつくるのか、そういう議論をした上で結

論出していただきたいです。要するに、私は、今みたいな議論の状況の中で、削減、先にありきってというのは、私たち市民の願いにこたえたものではございませんし、せめて現状維持というふうに思いますけれども、もっともっと議会改革の話を先にさせていただいて、市民の合意も得た上で最終の方向性は出していただきたいと、こんな安易なやり方ではやらないでいただきたいというふうに思いますけど、いかがでしょうか。（拍手）

◆**桑田議員** 何点かございました、児島委員。

◆**児島議員** 大変いいお声をいただいたと思ってます。そもそも本来ならば直接民主主義で市民全員が参加して、こういう市政運営や監視に当たるべきであります。物理的に不可能なのでやむなく代議制の議会制がとられているわけがございます。それに当たりまして、なるべく多くの方が議員となって一つの議会を構成するのがいいに決まっております。例えば地域の代表であり、女性の代表であり、労働組合がありましょう、いろんな関係の代表の方がいろいろ集まってくる、一つの議会を構成するという形が一番いい形だと思っています。要するにジグソーパズルのピースが多いほどいい議会ができると。きのうもこれ私申しましたけど、その方がおもしろいし、いろんな声が集約できるということはわかります。ただしですね、やはりそれは限界というのがやっぱりありまして、それが議員定数という話になるわけがございます。

私どもは最初から削減ありきで議論したわけではありません。どういう数がいいのか、議会とは、議会の役目はどうあるべきかとか、議員の活動はどうあるべきかということから検討してまいりました。その前提となるのは、やはりそこで出てきた声、まず議会改革をしなきゃいけないっていう声、真っ先に上がってきております。議会改革をするということを前提として、この委員会は共通認識のもとで活動しております。ですから、先ほど委員長の報告がありましたように、最終的に次の委員会で皆さんの声をお聞きした後で議論をいたします。最終的に幾らにするということを決めますけども、そのときの最終報告には、必ず議会改革をするっていうことが大前提で議長の最終報告は出されると思います。既に議会改革の委員会をつくろうかという声も上がっておりますので、それは安心していただきたいと思います。

それと先ほど委員長のほうから、財政の問題ではないということがありました。でも、やはりこれは財政の運営は避けて通れない問題だと私は思っております。これについても議論をいたしました。現在、歳出に占める議会費の割合が0.5%であります。ただ、23年度は議員年金が廃止になりましたので、一時的にその処理でふえて0.7%ぐらい上がっておりますけども、大体0.5%です。この数字は山陰地区及び同等の市町村を比べてみても高い数字ではありません。むしろ低い方の数字です。鳥取市以外はかなり議会費に関しては儉約をしてると御理解いただければいいと思います。しかしですね、この先、27年度から合併特例の交付税が削減されます。今、全部、普通交付税が250億円ありますが、27年度から5年間かけて約57億円、ですから相当な額が削減される見通しが立っております。それにつきまして、やはりそれを見越して議会はどうあるべきかということも、定数はどうあるべきかということも、やはり議論の中の一つの要因にはなっております。

繰り返しますけど、先ほど委員長が申しました議員間討議、8人の根拠はって言われましたけども、やはり多い方がいい、でも削減しなきゃいけない、6割の市民が削減を望まれているとい

うことを真摯に受けとめて、総合的に判断した数が一応32であるべきでないかということが、一たんこの委員会で市民の方にお示ししようという数字となったいきさつでございます。以上であります。

◆桑田議員 Fさん、よろしいでしょうか。追加の質問ありませんか、よろしいですか。

大変幅の広い御質問だったように思いますが、そのほかの委員の皆さんで御意見のある方ありますか。よろしいですか。

(「いいです」と呼ぶ者あり)

◆桑田議員 はい。それでは、そのほかの質問がございましたら、お手を挙げていただきたいと思いますが、ございませんでしょうか。

どうぞ。じゃあ、そちらの前の方。

○質問者G Gっていいいます。

今日のこの会ですね、私は非常に市民の意見を聞くという点では、画期的ないいことだというふうに評価したいと思います。市民参加の市政をやっていく上で、非常に一つの見通しが、明るい見通しが今、緒についたというふうに思っているんですね。

定数削減の問題ですけれども、2,000人の市民にアンケートをとった、回収したのが六百数十人ですか、約30何%。他に自治連合会等、この等の中には恐らく婦人ですか、何か婦人団体というふうにちょっと聞いていますが、これらのところからいろいろな要請があつて、削減について。ここに依拠して定数削減という発想は、私は非常に貧弱だというふうに思うんですね。しかも、一番最初言いましたけれども、市民の意見を聞くということでは非常に評価したいんですが……

(発言する者あり)

○質問者G よろしいですか。

◆桑田議員 はい、どうぞ。

○質問者G 聞いてね、この裏側を見たら次の議会で提案するというふうに言ってるんですね。私はね、ちょっと拙速じゃないかというふうに思うんですよ。だから、先ほどだれか言われましたけれども、自治連合会から意見が出た、上がったと、その下部組織である自治会、町内会では全く議論がされてない状況ですね。だから、もっともっとそういう点を広めて、できれば、言葉で言えば、全市民が参加して、その合意のもとにやっぱり市政を進めていくという立場に、ぜひ議員さんも議会も、そういう立場に立ってほしいという要望を一つしておきたいと思います。以上です。

◆桑田議員 御要望ということですが、上杉委員長、はい、どうぞ。

◆上杉議員 ありがとうございます。自治連合会あるいは老人クラブ連合会、連合婦人会、消費者団体協議会ですか、そこから、要するに公のそういった組織から、議会から陳情を受けたわけでありまして、我々がどこまで自治連合会あるいは老人クラブ連合会にですね、どこまでその話がおっていて、合意として出てきたかということは調査はいたしておりません。ただ、出たことにつきましては、これは厳正に受けとめなければならないわけでありまして、そういった状況の中で検討した経過があります。

それから、すぐに2月定例会でするのかという意見でありますけれども、先ほどお話ししまし

たように、皆さんの御意見を聞かせていただきました。改めてこの委員会の中でも議論は交わしていきたいというふうに思っております。以上です。

◆**桑田議員** それでは、（聞きとり不能）の方、お願いします。吉田さん、こちら。

○**質問者H** Hと申します。よろしくをお願いします。

先ほどから聞いてますと、議員定数は人口比だとか、広さではないとか言われましたですけども、ちょっと考え方を変えると、広さっていえば北海道が一番広いと思いますけれども、人口比でいえば東京が一番多いでしょう。そういういろんな差があるのに、何か聞いてると、そういうところに逃げられて議員定数を何名にするか、結局、最終的には特別委員会っていうんですか、議員のほうの定数を議員同士で決めていかれるんでしょうけど、（聞きとり不能）が広いとか、人口比とか、そういうことをもっと勉強されて決められたらいいと思うんですけど。

それと、僕もう一つ、ちょっとこれは（聞きとり不能）の大きな質問なんですけど、アンケートにノーと言われた方とわからないと言われた方がほぼ半分以上どの項目にもありましたけど、それに対しての勉強というか、検討されるとかなんとかってすぐ言われますけど、どういうふうに何をされているのかが知りたいんですけど。

それと、会津若松とか、あちらの方に勉強しに行かれたっていうふうに言われてますけども、なぜあの場所が適当だったのかっていうふうなことをちょっとお聞きしたいんですけども。人口比が鳥取と似てるといって言われましたけど、議員定数の数にしても。だけ僕らは、本当に議員さんが、議員の人の名前もわかってもらえない、議会もテレビで見てももらえないとか言われましたよね、2チャンネル。あれ僕見ましたけど、一つもおもしろくも何ともないですわ。要は、あなた方が何か市長と話したか何か知りませんが、ほぼノート読んでるだけじゃないですか。国会みたいに答弁をし合って何かするんじゃないし、こっちの何か書いたことをしゃべって、向こう、市長が答えてるだけ。ああいうのを見て、もう一度見たいというふうに全然思わないんですけど、そりゃ地域の人が出て議員がしゃべるときにはじっと見ますよね、僕らの意見が出てるかどうか。でも、他のほうの方がしゃべってる議員の人のときには、何かずっと読んでいて、これが質問ですみたいな格好で終わってませんか。テレビでやるんならもう少し工夫されて、市民にもうちょっと見てくれえとか、僕らの意見も聞いてくれよとかいうような、何か方法がとれたら、もっと市民は市議会に興味を持つと思うんですけど、どうでしょうか。以上です。

◆**桑田議員** 今、とりあえず質問については2点、アンケート調査を受けた後の議論を市議会として、または特別委員会としてどうしているのかということと、あと先進地視察がどのような状況の中で選ばれたのかという問題について、まずお答えいただきたいと思えますし、あと、本会議場での質問のあり方については、これは議会改革のこれからの観点、問題かと思えますので、この場では、どうしましょう、議長のほうにお答えいただいて、まず最初の質問について、上杉委員長。

◆**上杉議員** 人口比であったり、面積割合であったりして、これで定数を決めることについてですけども、あくまでこれは人口、それから面積も加味し、そしてまた、合併という大きなことがあったわけですから、合併町村ということも踏まえた形で議論いたしております。

橋下市長さんが以前に、鳥取県の県会議員は人口10万人に1人でいいんだから6名でいいん

じゃないかというようなこともありました。結果として、人口で割ればそういう形になっちゃうわけですし、ただ、本当に人口比で割っていいのかということなんです。ですから、議会の議論としては、人口だけではなくてして広さ、それから合併した町村、そういうことも含まれた形の議論をいたしております。

それから、あと何だったけな。

(「視察先」と呼ぶ者あり)

◆**上杉議員** 視察ですけれども、先ほども話しましたように、同じ規模だったのは上越市だけです、20万人。あとは人口規模違います。それはなぜかということ、我々委員会では、先ほど申し上げましたように、まず、このアンケートをやる、アンケート調査をやろうというのが一つ、それからあわせて、それを踏まえたかたちで市民説明会をやろうということを用意をいたしております。上越もですし、塩尻、それから会津若松、そこがどういう活動をそれぞれ議員さんがとっておられます。ですから、つぶさにそのことを視察をして、それを視察をして、今回のアンケートであったり、そしてまた、今回の市民説明会の一つの参考という形で行かせていただいたような状況でございます。

◆**湯口議長** いや、テレビを見ていると一つもおもしろくないというお話でございましたけれども、今、本会議を放映しておりますけれども、基本的にはですね、しっかり議論をするという前提で、事前に質問項目を執行部側にこういう質問をするということを出すわけですね。それに対して、執行部のほうは責任ある答弁をああいうかたちでやっておられるということなんです。そういった運用の仕方が、見られた方にとっては非常におもしろくないというふうに感じておられるのかもしれないわけですが、やはりしっかり議論をして、限られた時間の中で質の高い議論がどうしたらできるかということについては、今後これは議会改革の中では検討していかなくちゃいけないかなと思っておりますけれども、おもしろくできるかできないかっていうことについては、ちょっと何とも言えないところがありますので、よろしく願いいたします。

◆**桑田議員** 第1部の予定時間がそろそろ参っておりますが、最後に、じゃあ、前の女性の方からの御意見をいただいて、最後の質問とさせていただきたいと思いますが。

(「まだあるが」と呼ぶ者あり)

◆**桑田議員** はい、もう1人いらっしゃいますか。

(「まだある」と呼ぶ者あり)

◆**桑田議員** じゃあ、簡潔明瞭な御質問でよろしく願いいたします。次の時間もございしますので、よろしく願いします。

○**質問者 I** I っています。

私、今まで、これは聞いてもね、やっぱり何で減らすのかっていう意味が全然わからないんですよ。なぜ減らさなくちゃいけないのかっていうことが。アンケートのことも言われましたけども、市庁舎の問題のときもね、たしかアンケートが先にあったと思うんです。でも、それは住民投票で全く覆されてしまったじゃないですか。だから、本当に市民の意見なのっていうのはあると思うんです。だから、こういう事前にね、市民の意見を聞こうと思われたんだったら、アンケートなんかではなくて、事前に何でそういうことについてのこういう説明会を開いて、皆様どう考え

られますかという場を設けられなかったのかということをおもいますね。今後はそういうふうな私たちをとっていただきたいとおもいます。

それから、やっぱり定数を減らすということは住民の声が届きにくくなるということなわけですから、これほど意見が噴出して途中で、削減するという方向で持っていかれるというのは絶対に反対です。とりあえず現状維持ということでやっていただいで、広くもっと深く市民の声を反映したかたちで議論をしていただきたいというふうに思います。

◆**桑田議員** 答弁のほうは。

上杉委員長。

◆**上杉議員** 何回も申し上げますけれども、やっぱり市民の意見というのは、アンケートの数は少ないとか多いとかの問題ではなくして、多くの市民、多くの団体から削減の要望が出るとるわけでありまして。これは真摯に受けとめなければならない。それから、あわせて、きょう皆さんの御意見も伺いましたし、きのう気高でも伺っております。32が適当だという方もおられましたし、きょう午後、さざんか会館のほうであります。これらの意見を踏まえたかたち、先ほど申しました、その後、特別委員会を開催をいたしまして検討をさせていただきます。

◆**桑田議員** はい。じゃあ、後ろの方で最初に手を挙げられた方、はい、どうぞ。めがねの方、はい。

○**質問者J** 要するにね、市民の声を聞かないね……。

◆**桑田議員** お名前をちょっとお願いできますか。

◆**桑田議員** Jさん。

○**質問者J** 市民の要望で、その辺を聞かないからね、議員が。だから、こういうふうにストレスがたまってますよね。だから、本当、定数ね、**質問者C**さんのほうも言われたんですが、2,000人のアンケートで3分の1しか回答がないというのはね、こればかげた話で、何で3分の1しかないんだと、ねえ、その辺をよく吟味しないといかんしね。ほんで、あたかも委員会が8人というような、これ下のほうに書いてあるんですがね、これ何、8年経ってね、地域の特有の課題が山積ってある。これどこでも山積しとるから議員がおるんであってね、あたかも7人がね、8人でなきゃいかんとかね、そんなコメントは入れたらいかんしね。それとあわせて、来年、市会議員と市長選があるんだけどね、これ10カ月足らずで来年あるわけね。これ一本にしてよ、一本に、同一選挙、無駄な金使うなって。なあ、市長選のときに市会議員をやろう、一本で済むんですよ。だからね、投票率も上がるしね、経費も少なくて済むし、その議員を減らす減らさないよりもね、まず、それからやろうよ、ねえ、頼みますわ。

◆**桑田議員** Jさん、ありがとうございます。今の御質問というか、御意見として承らせていただきまして、また議会のほうで、これは議論をさせていただきたいとおもいます。

それでは、もう一方ありましたですね。済みません、どうぞ。

じゃあ大変恐縮ですか、この方をおもちまして第1部の質問を終わらせていただきたいとおもいます。よろしくお願ひします。

○**質問者K** 済みません、Kといいます。

いろいろ定数削減の話は、今こうして皆さんから出たんですけども、実際、36名だったら本当

に市民の声が通るのか。極端な話、32名だったら通らんのか、26名だったら本当にもう全然通らんのか、実際のところ我々はわかりません。それで、36名が本当に現状維持ですっていう意見言われた方もありますけども、それは何を根拠に言われているのか。問題は、どういう組織でも取りまとめ役、経費のかかる取りまとめ役っていうのをですね、多いがいいか少ないがいいかっていったら、どの団体も少ないほうがいいんです。問題は、お互い、我々にも責任があるんです。こうして市議さんを選挙で出してですね、それで我々が出した市議をですよ、我々が批判してるわけですから、我々に、まず責任があることは重々承知しております。

そんで、結論から言いますと少ないほうがいい、だからそれを吟味してもらって、いろいろ市民からの声をしょっちゅう聞こうとされてる皆さん方ですから、本当に何人が必要なのかということは決めていただいたら結構かと思えます。ただ、多いほうがいいか少ないほうがいいかといったら少ないほうがいいんです。

それと、こういう機会を初めて持つていただきましたですけども、これをぜひ今後もこういう市民の声を聞くという、この場をぜひ定義づけていただきたいなという要望をいたしておきます。

それと、今いろいろ意見出てますけども、私はこの部屋に入れんぐらい人が集まるのかなと思いましたが、少なくとも我々のほうにも責任があるというのは重々承知しております。たかがこれだけの人数で市民要望がすべて正しいかということでもないですし、そこらをよく吟味していただいて、多いがいいか少ないがいいかといったら少ないがいいという要望だけしときます。以上です。（拍手）

◆桑田議員 はい。ありがとうございます。それでは……。

◆上杉議員 私のほうからいいですか。

◆桑田議員 ええ、上杉委員長、どうぞ。

◆上杉議員 何人がいいかということについては、議会でもいろんな議論がもちろんあるわけです。少ないがいいという意見ももちろんあるわけですがけれども、きょうも話しましたように、問題は、我々議員の資質を上げていかなければならないに尽きるというふうに思っております。少なくともしっかりとそういった皆さんの御要望を聞き、そして市政に反映させる、そういうシステムであったり、そういう議会でありたいというふうに思っております。きょうを契機に、議会対策、議長も申し上げましたように、市民の皆さんの意見を聞く。きょう出た質問等々につきましては、また議会のホームページ等々でまとめた形で皆さんにお知らせする、それから、きのうなんかでも、きょうの答えのできなかつたというふうな部分につきましても、答弁できなかつたことにつきましても、専門的な問題につきましても、議会のホームページ等々でまた皆さんにお知らせするというふうにしておりますので、よろしく願いいたします。

◆桑田議員 第1部、皆さんから大変多くの御意見、貴重な御要望、御意見いただきました。まだまだ御意見もあろうかと思いますが、これをもちまして第一部を終了とさせていただきます。